

奈良高専 図書館だより

No. 4

記事

1. 私の読書感
2. 月と六ペンス
3. 豊かな創意を
4. 愚直の一念
5. 寺田寅彦全集
6. 八浜先生 寄贈図書
7. 新着図書案内

1979年10月 奈良工業高等専門学校 発行

私の読書感

本稿は、島内先生の在職中の去る7月に寄稿して頂いたものですが、その後、先生は病気で入院され、10月2日逝去されました。謹んで御冥福を御祈りすると共に、先生の面影を偲びながらお読み下さい。

機械工学科教授

島内 一郎

昔、中国の柳宗元といふ人が、汗牛充棟……本を運べば牛が汗し、家においては本が棟にとどくほどの意……といったが、これは私達が中学校の時、漢文の教科書で習い、高校入試の山の一つであった。中国に隋唐の時代から清朝の末年まで続いたといわれる高級官吏登用試験、すなわち、科挙について書かれたものを読むと、受験生は四書五経等を丸暗記して試験にのぞんだそうである。之が我が国に伝ったのが高等文官試験制度（現在の国家公務員上級試験甲に相当）と聞いているが、その受験勉強をしている中学校時代の友人と学生時代夏休みに郷里で会ったとき、友人は、自分も必ず受験するつもりであるが、合格した先輩の話では、大学では試験委員の教授の講義をノートすればよい、あとは図書館に行き、自分の背の高さの法律書を読み、新聞雑誌を読むのと同じ位の速さになれと言われた。自分には、とてもその自信が無いと言っていた。私は、先輩からおどかさされ、又気合をかけられたな一と思った。後で聞いたことであるが、その中学時代の友人は、在学中文官試験司法・行政に合格。卒業後応召。シンガポール攻略戦線で惜しくも戦死したのである。彼のファイトから見ると、前述の汗牛充棟とはゆかないまでも、せつせと図書館通いをしたに違いない。

テレビ等でよく記者と大先生の討論を見るが、大先生の書齋には、所せましと本が積まれている。私は、この先生がこれ等の本を全部読まれているのかと、は

じめは疑ったが、どうも全部読んでいらっしやる様である。また、新刊書にいたっても、大きく部厚い本を、日本語訳か原書か解らないが、読んでいらして、どうして私達の能力では及ばない、頭のいい、また努力家が居られると感心ばかりしている。以上、人のことばかり書いたが、さて自分のことになると、一言にして言えば自分自身読書する人間とは思っていない。従って、この便りに投稿すること自体大分遠慮していた。しかし、学生時代先生から、社会に出て先輩から教わったことを思い出し、自分も今更ながら反省し、一方学生諸君にも何かの役に立つと思うことを述べたい。

読書の型には、表現の方法はいろいろあるかも知れないが、私は、乱読型と、一方一つの本を熟読する型とがあると思う。前者は、新刊書を片っぱしから求めて、一日一冊、毎日の新聞を読むように読んで居られる方で、人間の能力としてはとても出来ないと思われる。これも人に聞いたことで確でないが、本の各頁を斜めに読まれるそうである。それでわかれば大したものであるが、私の考えでは、この読み方はその場限りで、のちのちまで記憶に残らないと思われる。

私達が中学で受けた教育は、上級学校入学試験の準備がはじめてあったせいかも知れないが、低学年では、英語は暗誦と書取り一点張り。前の週のリーダーのこれ等が出来なかったら先生からなぐられ、教室外に放り出された。数学にいたっては、週数回不意試験。

数学の先生は、教科書を13回読め。13回といえば大変辛いようだが、辛いのは3・4回までで、あとは楽になり、どこの上級学校の入学試験にも必ず合格する、と言われていた。小生等の同級生で、之を半分でも実行した人は、ほとんど上級学校に入学している。所謂熟読型である。

さて、現在の自分はどうかであるか。長年の専門の方は、自分なりにわかっているつもりであるが、専門書を読んでいると、特に最近の専門書は、難解なところにおつかることが多い。私は、長年の経験から、大体その結果はわかっているつもりであるが、もしわからないことがあると、その先を読む気がなくなる。そこで行詰ってなやむより、本校には、その道の偉い先生が居られるので、教えて貰うことにしている。聞くは一時の恥、知らずは万代の恥といわれている。

私の宿舍の書架は小さいが、その1/2は、内外で集めたデータである。本校に就任前、会社で集めた専門分野の資料をこっそり写しとったもので、大分古くなって、今では役に立たないかも知れないが、大切にしている。読書でもあまり浮気せず、たとえば、ドイツ語の Samlung Göschen は、ドイツで戦前から発行されている有名な文庫本で、古典的な小本であるが（著者は次々変っているが、今日でも発行されている）、何度も読みかえている。専門分野の邦訳も、2・3年前完成した。大先生から見たら、誠に小さな仕事であろうが、苦労して訳するとその内容は、案外頭から離れないものである。

私にとっては、ここに書いた中の一つでも、学生諸君の勉学の参考になれば幸いである。また、これもある先生から聞いたことであるが、本屋へ行き、自分が買いたい目的の本があるときは別であるが、只何となく本屋に立寄り、ずらりと並んだ本の中から、目星い表題のものを何とか見つけ、一体此の本の内容はどんなものであるかを知り度いときは、たとえば文庫本であれば、最初の3・4頁と、本の中程と、あとの3・4頁を読めば、大体その内容がわかるそうである。考えると大分無茶な話であるが、これも一つの読書法であろう。今日にあって、一夜明れば、文化経済、特に科学の進歩発展が大刻みに発達して、その新しい専門分野が次々に誕生している時代に、こんな私のような考えでは、時代おくれになるかもわからない。

私は、いま、我々の学生時代の悠長な読書法を一部述べたが、基本的に忠実であるべきことは、何10年前も今も変わらないと思う。自分で熟読した本の内容は、永久ではないが、案外長く頭の中に保存されているものである。

以上、私の読書感というより、先生、先輩から教わったことを一部紹介したにすぎない。学生諸君は、それぞれ効率のよい、自分にあった読書の方法を考えてみてはどうであろうか。学校の教科書は、特に選択さ

れた本であるから、読書の秋に、十分理解して頂き度い。

「月と六ペンス」

英語科助教授 中村元一

有能な株式仲買人として、豊かに暮らしていた主人公ストリックランドは、40才になった時、自分が満足のできる絵を描きたいという願望を抑え切れず、妻子を残して、一文なしの状態の家を出た。パンと水だけの生活に耐えながら修業を続けたのち、彼はタヒチ島にわたる。この島で、彼は癩病にかかり、身体はくずれ、視力は衰えていくが、それでも絵を捨てず、最後に、彼の住む小屋の壁画を描く。それは一種の魔力のある作品であった。彼は満足し、タヒチで結婚した現地人の妻に、彼が死んだら小屋もろとも壁画を焼き払うようにと遺言して死ぬ。彼の死後、妻は何のためらいもなく小屋を焼く。この夫妻にとって、その絵を世間や美術家が、どう評価するかということは問題ではなかったのである。

私がこの作品を読んでからずいぶん年月がたったけれども、壁画が焼かれる場面を想像して感動したときのことは忘れられない。モームの生涯については、一般に「思いのままに生きた生涯」「巧成り名遂げての死」と言われているが、私には「『月』への憧れを捨て切れなかった人生」「『六ペンス』に引きずりまわされた生涯」だったように思われるのである。

この作品をどのように解釈するかは、われわれ読者の自由だが、人間の取り決めた善悪の価値観を超えた「ひたむきな一つの人生」として読むことも可能なのである。

「月と六ペンス」S. モーム著 岩波・新潮社

豊かな創意を

機械工学科教授 若林敏夫

人間社会は生活の助けとなる道具を作り始めてから長い時代に亘つて飽くことのない創意と努力で今日の機械文明を築いて来た。それは人類の幸福という目的のために行われてはきたが、昨今やもすると利益と安楽を追求するあまり様々な弊害を生じている。機械文明の担い手である技術者は今後は真に人間のためになる道を探らなければならない。自然科学は自然法則の均整のとれた調和の美しさを我々に教えてくれる。生物の世界もまた調和している。人間社会だけが不調和であって良い筈はない。機械文明は人間はもとより

他のあらゆる存在と調和しなければならない。まず機械についての従来の固定観念を捨て新しく創意をめぐらそう。人間は創造する生物で無限の可能性を秘めて居り原点に戻って創意を凝らせば新しい機械文明の未来は果てなく拡がってゆくだろう。

著者は本書の中で随所に仏典を引用しながら上述のように技術者の哲学と倫理の必要性を説き、創意の重要性を強調している。具体例として増殖する機械、群をなす機械、隙間のない機械などの斬新な着想と、未来の機械について示唆に富む提案を行なっている。

技術者は一度は未来の機械について想いを致すに違いない。このような時に本書の一読をお薦めする。

「発想工学のすすめ」 森 政弘著 講談社

愚直の一念

電気工学科講師 京 兼 純

一冊の本との邂逅により人の心の壁に深く食い入るような、2度や3度の経験は誰しも持つものである。しかしそれが体内でゆっくりと醸し、陰微な形で人生への指針となるものは僅少かも知れない。

私自身、若輩の身ですので内面奥深く巣くう陰の話はまだ出来そうもありませんので、身近な書籍の中から印象に残った文章をひとつ紹介したいと思う。

渡辺淳一氏の随筆の中で、「愚直の一念」と題された一文があります。氏は元札幌医大外科講師で、「光と影」により直木賞を受けた作家ですが、自然科学者としての知性と透徹した文章で、多くの読者をつかんでいます。さて、愚直の一念とは次の様な意味合いのものです。

大正の初めごろ、東大内科に呉という新米医師が入ってきた。当時は内科中心で、優秀な卒業生の多くは内科に入局していた。呉医師は、さほど頭の切れるタイプではなく、卒業成績もあまりいい方ではなかったし、その上性格が地味な為、あまり目立った存在ではなかった。所謂、その他大勢の末席に控えていた。入局して5、6年経つと、教授が医局員を一人ずつ呼んで、「君はこのテーマでやってみたまえ。」というような形で、研究課題が与えられる。

だが、呉医師にだけは一向にお呼びがつかからない。先輩達は、ほとんどがテーマをもらい、同期で入局した仲間も、大体もらっていた。呉医師は、自分が鈍才であることは承知していたから、他人より遅れることは覚悟していたが、それにしても少し遅れすぎる。なんとか自分のテーマをもらって、研究をしてみたい。そう考えて、ある時、教授の前にじきじき出て、テーマをいただけないと、頼んでみた。教授は、彼を一瞥し、しばらく考えて、「ヘルツ」と、一言だけ言

った。呉医師は、それで「ありがとうございました。」と、深々と頭を下げて帰ってきた。が、どこをどのように調べろといった具体的なことは一切指示してくれなかった。この話を聞いた先輩達は、即座に、それは無理だから止めた方がいいと忠告してくれた。また、時間の浪費という者もいた。というのは、当時「ヘルツ」＝「心臓」の研究は迷路とされており、それに取組むと、泥沼で、容易なことでは抜け出せないと信じられていたからである。優秀で、ものわかる内科医は、心臓にだけは入り込むなと言って避けていた。だが一度もらったテーマを「うまく出来そうもありません。」と言って返すわけにもいかない。なぜなら、その頃の教授は絶対の権力者であったからである。ともかく呉医師は、文献を集めて、こつこつと心臓の勉強を始めることにした。だが、言われたとおり、これは大変な壁であった。読んで、調べれば調べるほどわからなくなる。しかし逃げだすわけにもいかない。その間にも、仲間達は次々と論文を完成して、学位をとっていく。先輩から同僚、さらには後輩にまで追い抜かれて、呉医師一人、ヘルツをいじっていた。同級生は色々心配してくれるが、いまさら引き返すわけにはいかない。そのままさらに日が過ぎる。

いつできるか。そんなことは考えず、とにかくやるだけである。みんなの同情と、呆れた視線の中で、呉医師は仕事を続けた。それはまさに愚直の一念とも言うべきものだった。

かくして十数年後、彼は心臓と関係のある自律神経のメカニズムを発見し、解明してみせた。誰もが駄目だと、あきらめ手を引いた鉦脈から、金鉦を探し当てたのである。

それを聞いた時、テーマを与えた教授さえ、半信半疑だったという。だが、それは近代内科学に自律神経の意義を認識させた、輝かしい業績であった。この呉医師こそ、のちに東大内科学教授になり、内科成書を著し、さらに学士院思賜賞を授けられた、「呉健」その人であった。……………という。

氏は、「人間は、頭が良ければいいというわけでもない。秀才は、頭が良すぎるために、先が見えずぎで、足元の偉大な鉦脈を見逃してしまうことがある。呉さんは、なまじっか秀才でなかったために、他に目移りせず、足元を丹念に掘り起こすことができた。」さらに「鈍才は、もちろん弱点があるが、秀才にも秀才なりの弱点がある。」そして、「人間には、やはり『愚直の一念』ということが大切です。たとえ愚かでも、脇見をせず真直ぐ進む。そうすれば、なまじっかな秀才より大きな仕事ができる。わたしは、そう信じてこれまでやって来たし、これからもやって行くつもりです。」と、結んでいる。

「公園通りの午後」 渡辺淳一著 毎日新聞社

「寺田寅彦全集」

化学工学科助教授 井口高行

私は化学工学科で「粉体工学」を担当しており、粉体という言葉にはいささか興味があるが、この言葉を最初に用いたのが寅彦であると聞いたのがこの全集を読むきっかけであった。粉は魔物であるとよくいわれる。粉体の堆積は単純に液体でも気体でも固体としても取り扱えないからであるが、寅彦はすでに短かい文章で粉体力学が必要だと述べているのには全く驚きであった。

自然の現象に対する観察が極めて精密で、数多くの事例を引いた随筆には感心するのは勿論だが、少しでも科学に興味のあるものには、物事を観察する態度について本質的なものを暗示していると感じるに相異ない。

何らかの形で内容が科学に関係している随筆が多い。しかし、寅彦は「吾輩は猫である」の人物のモデルでもあったと云われているが、その漱石も高く評価しホト・ギスへの投稿をすすめている作品もあるように、文学的にも優れた作品も多いと思う。

この全集は寅彦のいわば専門外の随筆、日記などを集めた文学編ともいえるもので、全十七巻もありすべてを読むのは大変であるし、その必要もないが、すべてが短編でひまなときに少しずつでも読むことができるので御一読をおすすめする。勿論図書館に所蔵している。

「寺田寅彦全集」 (全17巻) 岩波書店

八浜前校長の 寄贈図書について

昨年度、八浜前校長より、86冊の図書と、多数の雑誌類が寄贈されました。その後、図書の整理、および、雑誌の製本が終了しましたので、図書室北窓側に低書架を新たに置いて、配架いたしました。その一覧表は、次のとおりですので、御利用下さい。

製本雑誌は、308冊になりました。

なお、八浜前校長は、昨年11月に逝去されましたので、ここに御冥福を御祈り申し上げます。

八浜先生寄贈図書一覧表

<総記>

City College of San Francisco General
Catalogue, 1964-65. College
続学堂百話 川原 琢磨 大阪工業大学
それでも太陽は廻る 石井 寿夫 あしかび社

<伝記>

稲田三之助伝 電気通信協会
俵田明伝 宇部興産

<社誌類>

風雪七十年 上野政次郎 経済サロン社
大阪ガス最近の10年 大阪ガス
大阪工業会五十年史 大阪工業会
神戸大学工学部五十年史 財界評論
大阪大学二十五年史 大阪大学

<自然科学>

Soviet education for Science and technology.
Korol, A. G. Wiley
微分積分学 古屋 茂 大日本図書
Proceedings of the International Symposium on
Macromolecular Chemistry, 1957. Pergamon
Style, Guide for chemists. Fieser/Fieser Reihold
外国化学文献所在目録 日本化学会近畿支部 同学会
12th International Congress of Pure and Applied
Chemistry: Abstracts of Papers. National Research
化学反応1 森川清/越後谷悦郎 実教出版
Interfacial phenomena. Davies, J.T. et al. Academic
無機・有機合成法集2 近畿化学工業会 増進堂
Advances in organic chemistry, 3. Wiley
Boron fluoride and its compounds as catalysts in organic
chemistry. Topchiev, A. V. et al. Pergamon
Identification of the commercial dyestuffs, 3.
Mulliken, S. P. Wiley
Investigation of rates and mechanisms of reactions.
Friess, S. L. et al. Wiley
A method for the identification of pure organic
compounds. Wiley
Organic synthesis, 2. Migrdichian Reinhold
有機化合物合成法9 有機合成化学協会 技報堂
Advances in protein chemistry, 7. Anson, M. L. et al.
Academic
Methods in carbohydrate chemistry. Whistler, R. L. et al.
Academic
Die Fabrikation pharma zeutischer und chemisch-
technischer product. Schwyzer, J.

<工 学>

- 応用数学 1-2 古屋 茂 大日本図書
 応用物理 2 熊谷 寛夫 森北
 German-English technical and engineering dictionary. De Vries, L. TAPPI
 電子機械技術者のための機械工学実験法 " 1951. TAPPI
 橋村伊佐夫他 大阪電通大学
 Radiation Dosimetry. Hine, G. J. et al. Academic
 Prufung und bewertung elektrotechnischer Isolierstoffe. Nitsche, R. Springer
 The chemical process industries. Shreve, R. V. McGraw-Hill
 化学工業概説 中村喜一郎他 教研
 化学工学 改訂版 藤田 重文 実教出版
 合成樹脂便覧 産業図書
 モノグリセリド 津田 滋 槇書店
 石油化学とその工業 堤 繁 南江堂
 塗料便覧 松本 十九 修教社
 Dictionary of plastics. Smith, P. I. Scientific & Technical
 Natural and synthetic high polymers. Moyor, K. H. Interscience
 尿素樹脂 垣内 弘 高分子化学刊行会
 プラスチックハンドブック 村橋 俊介他 朝倉
 プラスチック辞典 可塑編 高分子化学協会
 プラスチックの成型加工機器 小林正二 高分子化学刊行会
 プラスチック入門 井本 稔 " "
 ポリビニルアルコール 桜田 一郎 高分子学会
 Analytical chemistry of polymers. Kline, M. Interscience
 Chemistry of high polymer degradation processes. Grassie, N. Butterworths
 The chemistry of lignin. Brauns, F. E. et al. Academic
 The chemistry of phenolic resins. Martin, R. W. Wiley
 The chemistry of synthetic resins, 1. 2. Ellis, C. Reinhold
 Collected papers of W. H. Carothers. Mark, H. et al. Interscience
 Epoxy resins. Lee, H. et al. McGraw-Hill
 合成樹脂の成型加工法 大島 政治他 高分子化学刊行会
 Mechanism of polymer reactions. Burnett, G. M. Interscience
 Phenoplasts. Carswell, J. S. Interscience
 Plastics handbook for product engineers. Sasso, J. McGraw-Hill
 Plastics progress, 1955. Morgan, P. Iliffe
 Polyesters and their applications. Bjorksten Research Lab. Reinhold
 Polyesters. Caylord, N. G. Interscience
 Polyethylene. Raff, R. A. V. et al. " "
 Polymer processes. Schildknecht, C. E. " "
 Polymers and resins. Golding, B. Van Nostrand
 Polyurethanes. Saunders, J. H. et al. Wiley
 Techniques of polymer characterization. Allen, P. W. Butterworths
 Vinyl and related polymers. Schildknecht, C. E. Wiley
- 化繊便覧 繊維学会 丸善
 合成繊維ハンドブック 桜田 一郎他 朝倉
 Pulp and paper manufacture, bibliography 1946-1950. West, C. J. TAPPI
 " " 1951. TAPPI
 West, C. J. TAPPI
 Technical Association of the Pulp and Paper Industry
 yearbook 1963-64. The Assoc.
 和紙 加藤 晴治 産業図書
 繊維工学便覧 繊維工業学会 修教社
 糖業便覧 2 製糖研究会 丸善

<語 学>

- A new German and English dictionary. Breul, K. Maruzen
 英文手紙の実際と練習 高橋 盛雄 大盛堂
 ずばりわかる基本高校英語文法作文 林 栄二 文研出版

<文 学>

- Typee Melville, H. West Virginia Pulp & Paper Co.

<製本雑誌>

- Bulletin of the Chem. Soc. of Japan. Vol. 35. 1962.
 放射線高分子 Vol. 1-5 1959-63
 出光石油技術 Vol. 5-7 1962-64
 樹脂化工 Vol. 11-12 1963
 化学 Vol. 8-17 1953-62
 化学機械 Vol. 9-16 1945-52
 化学工学 Vol. 17-24 1953-60
 化学の領域 Vol. 8-17 1954-63
 化学と工業 Vol. 1-4, 7, 9-10, 12-16
 1948-51, 54-57, 59-63
 海外高分子研究 Vol. 1-6, 8 1957-59, 61
 紙パ技協紙 Vol. 1-17 1947-63
 高分子 Vol. 1-12 1952-63
 高分子文献集 Vol. 1-24 1954-57
 高分子化学 Vol. 11, 13-20 1954, 56-63
 高分子特報 Vol. 5-280 1951-63
 工業化学雑誌 Vol. 23, 28-29, 48-53, 55-56
 1920, 25-26, 45-50, 52-53
 日本化学会講演要旨集 Vol. 1-16 1948-63
 日本化学総覧 Vol. 19-37 1945-63
 日本化学雑誌 Vol. 67-83 1946-62
 奥野パルプ紙研究所技術会報 Vol. 2 1961
 プラスチック Vol. 13-15 1962-64
 山陽ニュース Vol. 1-14 1949-63
 接着 Vol. 6-8 1962-64
 繊維学会雑誌 Vol. 2-20 1946-64
 繊維科学研究所年報 Vol. 5-16 1952-63
 染料と薬品 Vol. 7-8 1962-63
 帝人タイムス Vol. 32-33 1967-68
 Textile Research Journal. Vol. 29 1959

東洋レーヨンKK集報 Vol. 2-6, 8-17 1947-62 材料 Vol. 12 1963
有機合成化学協会誌 Vol. 3-22 1645-64 材料試験 Vol. 11 1962

新 着 図 書 案 内

<総 記>

図書館展示ハンドブック 全国学校図書館協議会
学術雑誌総合目録自然科学欧文編 1979年版 紀伊国屋
出版年鑑 1979 出版ニュース社
日本書籍総目録(全2冊) 日本書籍出版協会
国民百科事典 16, 17 平凡社
世界大百科年鑑 1978, 1979 "
The Americana Annual 1979 Grolier
朝日年鑑 1979 朝日新聞社
世界の博物館 7, 9, 16, 18, 22 講談社
ちくま少年文庫 10:どんべえ物語 筑摩
ちくま少年図書館 3, 37 "
岩波少年文庫 10, 11:クマのプーさん 岩波
人類の知的遺産 3, 5, 6, 12, 20, 24, 42, 48, 51, 54, 56, 62, 68, 74, 76 講談社

<哲学・宗教>

孤独よ、さようなら 国谷 誠朗 集英社
日本思想史大系 8:古代政治社会思想 岩波

<歴史・地理>

日本史小百科 8:天皇 近藤出版
天理市史(全5巻) 天理市役所
大和 奈良新聞社
図説日本文化の歴史 1・2・3 小学館
現代執筆者大事典 4 日外アソシエーツ
角川日本地名大辞典 25:滋賀, 32:島根 角川
紀行全集世界体験 10:東南アジア 河出
奈良県都市計画地図集 昭和54年版 大阪人文社
日本分県地図地名総覧 昭和54年版 人文社
日本の山河 13~17:中国, 34~40:関東 国書刊行会
全訳世界の地理教科書シリーズ 15~22 帝国書院

<社会科学>

岩波講座子どもの発達と教育 3 岩波
岩波六法全書 昭和54年版 "
世界の民族 5, 8, 15, 17 平凡社

<芸 術>

原色現代日本の美術 2, 12, 16 小学館
奈良六大寺大観 2, 10, 11 岩波
日本美術全集 11, 13, 15, 22, 24 学習研究社
日本の美現代日本写真全集 6, 11 集英社

西洋美術全史 6, 7 グラフィック社
週刊朝日百科世界の美術 3, 4 朝日新聞社
X線とソフテックス写真 小泉菊太 共立
鏡:虚構の空間 由水 常雄 鹿島出版
音楽展望 吉田 秀和 講談社
草燃える 藤根井和夫 日本放送出版会

<体 育>

奇跡のテニス 服部 修平 祥伝社
遊歩大全(上・下)フレッチャー 森林書房

<語 学>

学研国語大辞典 金田一春彦他 学習研究社

<文 学>

文学入門 伊藤 整 光文社
児童文学論 L. H. スミス 岩波
海外推理傑作選 5・6 松本 清張 集英社
世界動物文学全集 1~8 講談社
世界の文学 35・37 集英社
文芸用語の基礎知識 長谷川 泉他 至文堂
現代日本文学論争史上・下 平野 謙他 未来社
樋口一葉の世界 前田 愛 平凡社
ことばの芸術 杉山 康彦 大修館
宮沢賢治 佐藤 隆房 富山房
夏目漱石 1~3 小宮 豊隆 岩波
更級日記評解 玉井 幸助 有精堂
写真集小林多喜二 手塚 英孝 新日本出版
座談会明治文学史 柳田 泉他 岩波
現代詩の構図 小海 永二 文弘社
萩原朔太郎 飯島 耕一 角川
近代俳句大観 大野 林火 明治書院
近代詩 関 良一 有精堂
斎藤茂吉 本林 勝夫 "
新古今和歌集全註解 石田 吉貞 "
昭和万葉集 3, 5, 6, 7 講談社
短歌のすすめ 大野 誠夫他 有斐閣
日本の伝説 31~35 角川
図説日本の古典 4, 16 集英社
美女が八人死体が七つ 海渡 英祐 徳間
ブルジャンブルーの奇妙な黄昏 津山 紘一 "
父西條八十は私の白鳥だった 西條 嫩子 集英社

誓いて我に告げよ	佐木 隆三	角川	新源氏物語 1-5	田辺 聖子	新潮社
地下水脈	笹沢 左保	光文社	獅子の廊下	古川 薫	文芸春秋
大銀行の内幕	広瀬 仁紀	徳間	処刑戦士	大藪 春彦	光文社
誰が引金をひいた	菊村 到	光文社	主家滅ぶべし	滝口 康彦	文芸春秋
脱獄山脈	太田 蘭三	祥伝社	草宴	瀬戸内晴美	講談社
英霊たちの応援歌	神山 圭介	文芸春秋	スターリン暗殺計画	檜山 良昭	徳間
崖(下)	井上 靖	"	素顔の作家たち	奥野 健男	集英社
現場捜査官	島田 一男	光文社	竹取物語評解	三谷 栄一	有精堂
弦歌恐れ野	赤江 瀑	文芸春秋	魂の試される時(下)	丹羽 文雄	新潮社
白昼の白想	開高 健	"	頭取室	清水 一行	光文社
ヒラヤマ大滑降	生田 直親	徳間	宇宙の坊ちゃん	かんべむさし	徳間
ひまつぶしの殺人	赤川 次郎	光文社	われは幻に棲む	西村 寿行	"
百人一首殺人事件	山村 美紗	"	私を変えた聖書の言葉	曾野 綾子	講談社
イエスの生涯	遠藤 周作	新潮社	傭兵たちの挽歌	大藪 春彦	角川
一発逆転	大西 信行	集英社	妖術記	河野多恵子	"
異端の血族	志茂田景樹	祥伝社	米内光政(上・下)	阿川 弘之	新潮社
人生仮免許	山口 瞳	新潮社	夜の香り	古井 由吉	"
情事	森 瑤子	集英社	中国文学史	前野 直彬	東京大学
科学捜査官	島田 一男	光文社	燃える水柱	陳 舜臣	徳間
陰の告発者	草野 唯雄	文芸春秋	朝鮮文学史	金 東旭	日本放送出版会
解明旅行	"	光文社	18-19世紀英米文学ハンドブック		
カモカのおっちゃん興味しんしん1	田辺聖子	文芸春秋	作家作品資料事典	朱牟田夏雄	南雲堂
唐獅子惑星戦争	小林 信彦	"	愛誦英詩選	吉竹 迪夫	中教出版
軽井沢夫人	嵯峨島 昭	光文社	暗殺のデュエット	セラ, O.	徳間
賢い娘は大学へ行かない	川上源太郎	祥伝社	Dr. ヘリオットのおかしな体験	ヘリオット	集英社
風の、徒労の使者	丸山 健二	集英社	料理長殿、ご用心	ライアンズ, N. & . I.	角川
継続捜査官	島田 一男	光文社	チボー家のジャック	マルタン・デュ・ガール	白水社
獣たちの熱い眠り	勝目 粹	徳間	銀行50億強奪犯の掘った、奪った、逃げた		
拳銃	笹沢 左保	文芸春秋		スバギアリ, A.	新潮社
血族	山口 瞳	"	ギリシア喜劇全集 1-2		人文書院
キリストの誕生	遠藤 周作	新潮社	ギリシア・ローマ神話 1-3		白水社
恋歌	五木 寛之	講談社	テロリスト	Sjowall, M. 他	角川
黒豹の鎮魂歌	大藪 春彦	徳間			
草雲雀	池波正太郎	文芸春秋	<工学共通>		
京の山	岡部伊都子	講談社	技術の歴史 8-9		筑摩
マンボウ博士と怪人マブセ	北 杜夫	新潮社	手作りエネルギー	ストナー	ブルーバックス
未婚の母	井口 泰子	サンケイ	マグローヒル科学技術用語大辞典		日刊工業
もう頬づえはつかない	見延 典子	講談社	設計からの発想	佐貫 亦男	ブルーバックス
謎の古代文字	邦光 史郎	光文社	発想工学のすすめ	森 政弘	"
野づらは星あかり	住井 すゑ	新潮社	ソフトウェア思考法	有沢 誠	"
おとこの秘図 4-6	池波正太郎	"	工学と技術の本質	棚沢 泰	養賢堂
猟銃	野呂 邦暢	集英社	デザインの認識	サマー	S. D(鹿島)
さはら丸西へ	宮原 昭夫	角川			
サイボーグブルース	平井 和正	早川	<機械工学>		
三人目の容疑者	太田 蘭三	祥伝社	飛行機をとばすコマ	森 菊久	ブルーバックス
さらば栄光の斜面	生田 直親	徳間	原子力の挑戦	シュミット他	"
殺意	水野 泰治	集英社	飛行船の再発見	飯沼 和正	"
SF未来戦記全艦発進せよ	光瀬 龍他	徳間			
シャガールの馬	虫明亜呂無	講談社	<金属工学>		
シェリー酒と風の葉	庄野 潤三	文芸春秋	溶接全書 5・8・9		産報出版

〈化学・化学工業〉

岩波講座現代化学	1, 5, 6, 9, 12, 19	岩波
化粧品原料基準注解		薬事日報社
“	追補注解 1, 2	“

〈その他の工学・産業〉

ル・コルビュジェ	ジェンクス	S・D(鹿島)
北欧の建築	ラムッセン	“
インターナショナル	ジョンソン	“
イタリア都市の論理	陳内 秀信	“
建築鑑賞入門	カウディル	“
続建築とは何か	タウト, B.	“
近代建築の失敗	ブレイク	“
ラスベガス	ヴェントリ	“
三つの人間機構	ル・コルビュジェ	“
資源の風景	遠藤 一夫	ブルーボックス
東方への旅	ル・コルビュジェ	S・D(鹿島)
四つの交通路	“	“

〈自然科学〉

新しい科学論	村上陽一郎	ブルーボックス
科学の遊園地	パイク, M.	“
岩波講座基礎数学	第22回	岩波
紀伊国屋数学双書	7~15	紀伊国屋
目玉の体操	芦ヶ原伸之	光文社
数学きりぬき帳	矢野健太郎	新潮社
数学の広場	1~8, 別巻	ほるぷ出版
数学の歴史	1 弥永 昌吉他	共立
法華経と原子物理学	松下 真一	光文社
近代物理の発想	2 中村 伝	ブルーボックス
なぜ磁石は北をさす	力武 常次	“
詩人のための物理学	マーチ, R. H.	“
楽しむ数理解	吉福 康郎	“
新しい科学史の見方	謝 世輝	“
銀河旅行	石原 藤夫	“
岩波講座地球科学	4, 5, 9, 12	岩波
化石の手帳	木村 達明他	ブルーボックス
個体の生物学	大沢 文夫他	“
生物の飛行	東 昭	“
生物はなぜ進化したか	浅間 一男	“
酵素ハンドブック	奥貫 一男他	朝倉
心とからだ	石川 中	ブルーボックス
日本薬局方(第九改正)	日本公定書協会	広川
“	“	解説書 “

〈文庫・新書〉

板極道	棟方 志功	中央公論
菊と刀(定訳)	ベネディクト	現代教養
自分で考えるということ	沢 久敬	角川

空気の発見	三宅 泰雄	角川
美しき魂の告白	ゲーテ	“
アラビア遊牧民	本多 勝一	講談社
鳥葬の国	川喜田二郎	“
福翁自伝	福沢 諭吉	“
地下室の手記	ドストエフスキー	新潮社
結婚・友情・幸福	モーロウ	“
人間について	ポーボーアル	“
人間の絆 1~4	モーム, W. S.	“
零の発見	吉田 洋一	岩波新書
日本人と近代科学	渡辺 正雄	“
岩波新書(黄版) 73~92		“
講談社現代新書 360, 370		講談社

〈カセット・レコード〉

バダルゼウスカ/乙女の祈り他(pf)		ビクター
ベートーヴェン/ピアノ協奏曲3		東芝EMI
“ / “ 3		フィリップス
“ / “ 4		“
ボストンポップス/トランペット吹きの休日		ポリドール
ブルーーズ/第2ソナタ(pf)		“
ブラームス/ハイドンの主題による変奏曲他		“
ドボルザーク/交響曲9:新世界より		“
グリーク/ペールギュント		RVC
ハイドン/交響曲92:オックスフォード		フィリップス
マーラー/ “ 4		ポリドール
モーツァルト/ピアノ協奏曲20		フィリップス
“ / ヴァイオリン協奏曲3, 5		ポリドール
パガニーニ/24の奇想曲(V)		“
“ / ヴァイオリン協奏曲1		“
ラフマニノフ/ピアノ協奏曲3		RVC
ロストロポービッチ/チェロ協奏曲集		ポリドール
サン・サーンス/交響曲3:オルガン		フィリップス
シュベルト/ピアノ五重奏曲「ます」		“
リヒャルト・シュトラウス/楽劇サロメから		ポリドール
チャイコフスキー/交響曲「悲愴」		東芝EMI
“ / ピアノ協奏曲1		CBS/SONY
ヴェルディ/レクイエム		ポリドール
The fables Aesop.	Sporken Arts	

編集後記

今号は、巻頭言を機械工学科の島内先生にお願いしました。他の先生方にも、図書を推薦していただきました。それぞれが大変意味の深いものですから、良く読んで下さい。

読書の秋と言いますが、多くの図書館でも、また、本屋でも、一番良く読まれ、また買われるのは、春であるとのこと。本図書館も例外ではありません。

どうしてそうなるのか考えてみるのも面白いでしょう。本を読むのには、良い季節なのですが……。(N)